

# いきいきライフ

こころとからだを健やかに

## 愛 それは

公益財団法人 SBS 静岡健康増進センター

〒422-8033 静岡市駿河区登呂 3-1-1 電話▶054(282)1109 URL▶http://sbs-smc.or.jp

主催▶公益財団法人 SBS静岡健康増進センター、静岡新聞社・静岡放送 後援▶静岡県、(一社)静岡県医師会、(一社)静岡県歯科医師会、(公社)静岡県薬剤師会、静岡市

全5回シリーズ  
▼第4回・下▲

SBS 静岡健康増進センター公開講座「聞いてなるほど!いきいきライフ」の2017年度シリーズ(全5回)の第4回講座がこのほど、静岡市葵区のしずぎんホール「ユーフォニア」で行われました。後半は芸術塾代表(元タカラジェンヌ)古城都さんが「愛 それは」と題して講演しました。その概要を紹介します。〈企画・制作/静岡新聞社事業部〉

私は宝塚歌劇団に14年半、在団しました。タイトルを「愛 それは」としましたが、愛を語るのは、なかなか難しいんですね。皆さんは、それぞれ愛の感じ方をお持ちだと思っております。私なりの愛の感じ方を、経験を踏まえて、お話しさせていただきます。人間はさまざまな形で、無数の愛を感じています。こうしてステージに立たせていただけたのも、皆さんの愛に導かれていると感謝しています。

### 宝塚の神秘的な美し

私は宝塚歌劇団に14年半、在団しました。タイトルを「愛 それは」としましたが、愛を語るのは、なかなか難しいんですね。皆さんは、それぞれ愛の感じ方をお持ちだと思っております。私なりの愛の感じ方を、経験を踏まえて、お話しさせていただきます。人間はさまざまな形で、無数の愛を感じています。こうしてステージに立たせていただけたのも、皆さんの愛に導かれていると感謝しています。

私は男役を50作以上、演じてきました。役になり切るには、一人一人の性格、役柄、相手に対する思い、考え、個性を踏まえ、格好良く演じなければなりません。そのためにも、男性を研究する必要があります。宝塚は夢の中に出てくる王子様だけでは駄目なんです。さまざまな男役を演じるので、それぞれ、お手本になる人が必要です。

### 男役を格好良く演じる

私たちは時代はテレビがないので、映画を観ました。外国映画の雑誌とか、古い映画も観ました。「この役はこのタイプだから、どう演じればいいのか」と、一人ずつ役を

## 愛を感じると

## 楽しくなる 優しくなる

まな愛を見ています。感じています。もちろん、宝塚には、演出の先生や裏方さんに、男性がいらっしやいます。でも、異性を感じません。異性を感じれば、愛が愛になってしまします。そこが宝塚の神秘的な美しさです。どちらかという

私は苦勞して男役を演じてきたので、体の中に両性あります。女性は自分の中にありますから、自然に表現できます。男性の研究をしているので、「男性の愛って、どういうのが本当の愛なんだろう」と思うんですね。

皆さんがご存じの作品を挙げますと、「ウエスト・サイド物語」のトニー。彼の性格は、皆さん、映画などを観ていらっしやるから、大体お分かりますよね。本当に青年の理想の男性像です。ところが、なぜかあのトニー役は全然苦勞しませんでした。典型的な理想のタイプですからね。理想のタイプを研究するのは、お手本にならないし、愛の表現は難しくありません。

私は5年近く前、主人を亡くしました。亡くすと、ありがたさが分かります。いると当たり前。そこなんです、私が言いたい愛は。「あの時、もっと愛情をかけてあげれば良かった」と必ず思います。

3曲目は宝塚の「ベルサイユのばら」。愛に満ちた歌です。若き日の初恋の時に戻り「こんな時もあったんだ」という思いで聴いてください。今日は、歌で愛を伝えることができ、とても幸せです。皆さん、これからも豊かな愛に包まれて、ぜひ幸せにお過ごしください。



芸術塾代表 (元タカラジェンヌ) 古城 都さん

こしろ・みやこ 宝塚歌劇団・月組男役の看板スターとして1966年から8年半、活躍。上月兎、甲にしきとともに3Kと呼ばれ、宝塚の黄金期を支えた。看板スターとして58公演をこなし、俳優・本郷功次郎との結婚を機に退団。その後はテレビの司会、ドラマなどで活躍した。2002年NPO法人を設立。東京、三島市にスタジオを設け、後進の育成や芸術振興に尽力。14年浜松市に音楽とミュージカル、舞台を学ぶ「芸術塾」を開校。同年宝塚創立100周年を記念し、劇団の発展に貢献した100人に選ばれ、殿堂入りした。

### 16歳から愛を研究

退団して俳優の本郷功次郎と結婚しました。その時も、まだ私は半分男で半分女でした。結婚式では腕を組んで入場しますが、主人よりも先に落ちちゃったんです。女役が隣にいと錯覚を起こしてしまいました。後で主人にすぐく叱られました。「おまえ、いつまで男役をやっているんだ」と。

根は女性ですから、妻として、母として、時には男役になったり、古城都になったりしました。今この年齢になり、皆さんとの出会いとか、おつき合いの中で感じるの、愛がなければ幸せでは、いられないということ。愛がないと思えます。愛は何物にも代えられないと、自分に言い聞かせています。ご夫婦だけでなく、ご兄弟、お友達に対する愛をもう一度、思い起してみてください。

私は16歳のころから愛を研究してきました。宝塚にいたおかげで、観客の皆さんに喜んでいただけた人生だったかなと思っっています。愛を感じるとエネルギーが燃えます。楽しくなるし、優しくなります。

2曲目は「哀しみのソレアード」です。あまり聴いたことがないかもしれませんが、「独りほっちになっちゃった。この世から去りたい。どこかへ消えてしまいたい。こんなことじゃ、生きていけない」という思いが込められています。分かりますか、鬱(うつ)になりそうな時を乗り越えようとする歌です。3曲目は宝塚の「ベルサイユのばら」。愛に満ちた歌です。若き日の初恋の時に戻り「こんな時もあったんだ」という思いで聴いてください。今日は、歌で愛を伝えることができ、とても幸せです。皆さん、これからも豊かな愛に包まれて、ぜひ幸せにお過ごしください。